

八日

一 書寫高唐書法以長門書者黃日始書
 高唐書法以長門書者黃日始書
 高唐書法以長門書者黃日始書
 高唐書法以長門書者黃日始書

乃思書者乃四物也

一 書寫高唐書法以長門書者黃日始書
 高唐書法以長門書者黃日始書
 高唐書法以長門書者黃日始書
 高唐書法以長門書者黃日始書

坊有... 門者... 法... 年...
紙... 門... 法...
法... 門... 南...
部... 門...

寛保二年三月

本... 門...
部...

御奉行係

九日

一... 門... 南...
部... 門...
部...

乃...及...人...合...
一

...
一

...
一

一...
一

...
一

...

...
一

...
一

十四日雨風
但以後...
一

一...
一

...
一

□

光

神農の首骨有奇也此骨之骨在神農之骨
身之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者

神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者

一 今神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者

神農之骨也

神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者
神農之骨也其骨也者神農之骨也其骨也者

新橋宿 宿屋 徳兵衛
口宿 宿屋 徳兵衛

宿屋 徳兵衛

宿屋 徳兵衛

宿屋 徳兵衛

右の書は... 宿屋 徳兵衛

一 今更の... 宿屋 徳兵衛

一 宿屋 徳兵衛

一 宿屋 徳兵衛

一 宿屋 徳兵衛

一 宿屋 徳兵衛

一 今更の... 宿屋 徳兵衛

一 宿屋 徳兵衛

一 宿屋 徳兵衛

西の青木山に居る者ありて其の言を聞きて其の言を
たしむる

□ 東の青木山に居る者ありて其の言を聞きて其の言を

たしむる

西の青木山に居る者ありて其の言を聞きて其の言を

たしむる

東の青木山に居る者ありて其の言を聞きて其の言を

たしむる

西の青木山に居る者ありて其の言を聞きて其の言を

たしむる

東の青木山に居る者ありて其の言を聞きて其の言を

寄給書札
八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

八月十日

尚於此中... 後其年... 凡其... 此... 亦... 亦... 亦...

...

日記

一... 後其... 亦... 亦... 亦...



江ノ浦の事

人口

一、東浦田舎の事

田舎の事

田舎の事

江ノ浦の事

田舎の事

田舎の事

田舎の事

田舎の事

□

一 河原の舟今朝舟出遊船は七左衛門

と云ふ舟は由緒多しき舟に候なり

と申すは分法船平生に遊船に候なり

水子舟は色色平生遊船に候なり

水子流舟は舟少船に候なり

船歌

一 舟原の舟は舟原の舟に候なり

中流少船に候なり

一 舟原の舟は舟原の舟に候なり

舟原の舟に候なり

一 新編 萬葉集 卷之八 河津 菅原公

右 無高 在 卷之八 河津 菅原公 傳 入 也

中 古 也

其 著 傳 也

作 者 何 人

九月廿八日

其 著 傳 也

中 古 也

朝日風

一 此 傳 人 今 知 其 身 分 乃 水 子 也 其 姓

氏 名 且 乃 乃 通 源 也

大 門 水 之 子 今 知 其 身 分 乃 水 子 也 其 姓

氏 名 且 乃 乃 通 源 也

三橋以下橋々書類

三橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新橋以下橋々書類

一 新古属の系言大
一 西野野風正清日今晚合流及相渡り
一 池田沼水の中流平生也也
一 山平津の池を削り新古属の系言大

一 西野野風正清日今晚合流及相渡り

二日 約日西文已刻

一 西野野風正清日今晚合流及相渡り

西野野風正清日今晚合流及相渡り
口 西野野風正清日今晚合流及相渡り
口 西野野風正清日今晚合流及相渡り
口 西野野風正清日今晚合流及相渡り

三浦河筋海邊有今知古跡遺存
馬場河筋及知古

右邊河筋有古跡之存古跡其遺存

其遺存古跡其遺存古跡其遺存

河筋古跡其遺存古跡其遺存

古跡其遺存

古跡其遺存古跡其遺存古跡其遺存

古跡其遺存

古跡其遺存

二月六日 古跡其遺存

古跡其遺存

古跡其遺存古跡其遺存古跡其遺存

一 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島

二 日 記

一 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島

十二 日 記

一 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島

一 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て...

十一日遊入

一 今日 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て... 湯島に於て...

十七日書入

一 五福法月終抄本古語由海軍省蔵書

右傳及子其為海軍省蔵書今其抄本

書藏物也其抄本今其抄本

右傳及子其為海軍省蔵書今其抄本

抄本今其抄本

十八日書入

一 今自海軍省蔵書其抄本

右傳及子其為海軍省蔵書今其抄本

右傳及子其為海軍省蔵書今其抄本

キ

大一日記

一今相...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...



一 今日常法地... 乃... 乃... 乃...

一 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃...

一 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

一 今日常法地... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃...

英訂の事書出る人及場及者福也人此書成者

一 在在有人代者作書法書原方人代書也七

一 在在出書不田物書方情及田書原及場所行分

一 校中情負人新受原書原及田書原及場所行分

一 五人別在田書原及田書原及場所行分

一 有田之田書原及田書原及場所行分

一 有田之田書原及田書原及場所行分

一 有田之田書原及田書原及場所行分

一 有田之田書原及田書原及場所行分

一 有田之田書原及田書原及場所行分

有通海心陽門新會身一

一古場本経可心者及身本心成心

お座下物心身心身心身心身心

波和行注たふふふ

二月六日 吉野

日記

一 吉野 吉野 吉野 吉野 吉野

吉野 吉野 吉野 吉野 吉野

吉野 吉野 吉野 吉野 吉野

吉野 吉野 吉野 吉野 吉野

吉野 吉野 吉野 吉野 吉野

一 後彫り初めは通國の國名を記す
一 諸國の白を四角に記す
一 諸國の黒を四角に記す
一 諸國の赤を四角に記す
一 諸國の青を四角に記す
一 諸國の黄を四角に記す

一 諸國の黒を四角に記す
一 諸國の赤を四角に記す
一 諸國の青を四角に記す
一 諸國の黄を四角に記す
一 諸國の白を四角に記す
一 諸國の黒を四角に記す

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 段 本 出 江 切 盤 取 一 切 本 出 江 切 盤 取

一 昔は武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

一 武蔵守の山崎道成の遺言に依りて

三月廿日

負書
日

十日

今日判書見分及官役等(出立)候人
正解助吉左衛門尉(左)段中津左方候
書面(書)候由申付候段中津左方候

中津左方候方書面(書)候由申付候
段中津左方候(書)候由申付候
一(書)候由申付候
一(書)候由申付候
一(書)候由申付候

此の書は、
三橋以下橋々書類
の第一巻に
記されている

一 都府康公の
書状に
記されている

飯田徳信の
書状に
記されている

尾川徳信の
書状に
記されている

中尾徳信の
書状に
記されている

三橋徳信の
書状に
記されている

三橋徳信の
書状に
記されている

三橋徳信の
書状に
記されている

三橋徳信の
書状に
記されている

三橋徳信の
書状に
記されている

三橋徳信の
書状に
記されている

後世以爲傳記所載之是實事也

天下有財一夫之及而身其

計及一夫也之是實事也

昔者一夫也之是實事也

後世以爲傳記所載之是實事也

書風書列全

一今日形存而法其各

也及中傳記所載之是實事也

昔者一夫也之是實事也

後世以爲傳記所載之是實事也

楊花前月八日... 似似似似

由中洲水鏡... 似似似似

方... 似似似似

一... 似似似似

似似似似

似似似似

似似似似

似似似似

似似似似

似似似似

似似似似

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

古蹟の遺蹟は是れに在りて其の跡を尋ねて

道尾橋の事

一 ^年 東郷道尾橋の事

西郷道尾橋の事

河原道尾橋の事

たて道尾橋

道尾橋の事

口道尾橋

口道尾橋

口道尾橋

口道尾橋

口道尾橋

口道尾橋

口道尾橋

Handwritten text on the left page, including a vertical list of names and a signature at the bottom left.

Handwritten text on the right page, including a vertical list of names and a signature at the bottom left.



此書今在東京中區三橋下町

尾崎氏所藏其書在東京中區三橋下町

物方在東京中區三橋下町

十四日 吉野中敷
未詳

一此書尾崎氏所藏其書在東京中區三橋下町

尾崎氏所藏其書在東京中區三橋下町

十一日

一此書尾崎氏所藏其書在東京中區三橋下町

尾崎氏所藏其書在東京中區三橋下町

尾崎氏所藏其書在東京中區三橋下町

尾崎氏所藏其書在東京中區三橋下町

物事は其の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 名は其の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 右の語は其の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 父の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

十六日

物事は其の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 父の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 父の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 父の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 父の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

一 父の如くはなればこそ其の如くはなればこそ

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on two pages of aged paper. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left on each page. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.



十八日

一 今日月夜余宿山寺作夜間の物に思ふ事多し

子孫は下新時續江後平書信今之別名未

得月十日宿之秋之別名未得物是後一合書

一 上書古作も信も書も別名も右も江も之も

一 好物も友も音も別名も分時信も彼信も

一 好物も友も音も別名も分時信も彼信も

一 好物も友も音も別名も分時信も彼信も

一 好物も友も音も別名も分時信も彼信も

一 好物も友も音も別名も分時信も彼信も

一 好物も友も音も別名も分時信も彼信も

一 好物も友も音も別名も分時信も彼信も

一 今七月... 刻月...
一 負人...
一 古...
一 今七月...
刻月...

一 右...
十九日...
一 右...
一 古...
一 今七月...
刻月...



一 爲の船中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

舟中夜を以て

舟中夜を以て

一 今相府中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て
舟中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

舟中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

舟中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

舟中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

舟中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

舟中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

一 舟中夜を以て舟中夜を以て舟中夜を以て

一 新編之書は先づ右に記し、其の書名を記す
次に、その書名を記し、其の書名を記す
次に、その書名を記し、其の書名を記す
次に、その書名を記し、其の書名を記す

性而書

一 枕箱包水牛古本包箱

枕箱包水牛古本包箱

一 枕八拾七

集以或守

在後より古本八拾七枚、板紙、紙包、板紙、
又、折り紙、元、八、月、廿、七、日、是、桐、葉、久、徳、守、守、守、
之、歩、枕、古、本、古、本、元、是、元、元、元、元、元、元、元、元、
今日、廿、七、日、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、元、

右ノ沖倉

一合百番女各下等

一口番女各下等

一口番女各下等

一人番女各下等

番橋女取本末倉也

番橋女取本末倉也

番橋女取本末倉也

番橋女取本末倉也

番橋女取本末倉也

番橋女取本末倉也

番橋女取本末倉也

右ノ沖倉

右ノ沖倉

一人番女各下等

番橋女取本末倉也

一人番女各下等

一人番女各下等

一人番女各下等

右同の

大合の百之七十五

右之通凡積注

一減之

美上月

右

右在集卷之七十五

右在集卷之七十五

右在集卷之七十五

右在集卷之七十五

十一日

一 新大橋

右在集卷之七十五

右邊傳後不直 中條有 元為極抗 卒而為國

先別書古外 以公法也

友口昔年 以事公

下力有甚 古法 以公法也 以事公

分制中 以公法也 以事公

右邊傳後 中條有 元為極抗 卒而為國

一今昔時 也形 有甚 古法 以公法也 以事公

口昔年 以事公

下力有甚 古法 以公法也 以事公

分制中 以公法也 以事公

右邊傳後 中條有 元為極抗 卒而為國

一 新橋版に保つて置場は...
一 新橋版に保つて置場は...
一 新橋版に保つて置場は...

心算

一 新橋版に保つて置場は...
一 新橋版に保つて置場は...
一 新橋版に保つて置場は...

皇朝金書
沖波

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一
今日

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 新橋御宿御坊長次郎三喜介於中藏前吉原御宿

一 徳島県月五十四日

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 右様、此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 徳島県月五十四日

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 此の諸君は後世に在るに果ては成るべき事

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

坊主阿彌陀佛

坊主阿彌陀佛

一 今日吉吉吉吉 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

一 坊主阿彌陀佛五輪堂之了也此所記

口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

廿六日晴天

一 彰(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

一 右(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

三三三三三三三三三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三三三三三三三三三

一 女(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)口(五五)

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡
山崎宗鑑の書簡

809
106
1

[Faint handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.]

[Red handwritten mark or signature.]





国立国会図書館 タイトル『三橋以下橋々書類』 請求記号 809-1

ガラス使用

